

「開発途上国でスパイラルアップ実践力強化留学」参加学生の声

マレーシア マラヤ大学

持続性社会創生科学研究科国際乾燥地科学専攻 2 年生

6 ヶ月間の留学を終えて、私は多くの異国の友人と出会い、彼らの文化や価値観、そしてマレーシアの文化（特にイスラム教）に深く浸ることができたと感じています。この経験は、私にとって 100 点満点と言えるものでした。

学んだ点としては、まず異文化理解の能力が格段に向上したことです。様々な背景を持つ人々と交流することで、自身の価値観を見つめ直し、多様性に対する考え方方が大きく変わりました。また、留学前は間違いを恐れてなかなか英語で話しかけられませんでしたが、留学を通じて英語を間違えて話すことへの恥ずかしさがなくなり、英語でのコミュニケーション能力が向上したと実感しています。

自分自身の変化としては、困難な状況に直面しても「何とかなる」という前向きな精神が身についたことです。現地では電気や水道が止まるなど、日本とは異なる生活環境を経験しましたが、現地の学生と同じ生活を送る中で、適応力が培われました。

将来の目標については、現在修士 2 年であり、来年 4 月からは建設コンサルタント会社の上下水道部門で働くことが決まっています。この会社は海外売上比率が 4 割近くを占め、上下水道分野は東南アジアでの ODA 事業が多いことから、今回の留学で得た現地の生活体験は、将来の海外事業で働く際に確実にプラスになると確信しています。留学を終えた今、非常に大きな達成感に満ち溢れています。この経験が今後のキャリア形成において重要な礎となることを期待しています。

